

項目	環境保全を重視した森林資源の循環利用の推進	NO	1-6
事業名	ナラ枯れ被害対策検証事業		
事業費	299 千円	担当部局課	農林水産部 林業振興課

1 目的

- ・ 面的防除対策の実施  
合成集合フェロモンを用いた大量捕殺手法を実施する。

2 事業概要

- ・ 面的防除対策の実施  
合成集合フェロモン（誘引剤）を用いたカシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」）の大量捕殺手法によるカシナガの誘引効果と被害軽減効果を検証を行なう。
- ・ 平成27年度実績  
合成集合フェロモン設置 6箇所（計画5箇所）

3 成果と課題

【成果】

- ・ おとり木トラップの効果としては、微害地においてトラップから半径約100m以内の被害量を1/10にする結果が得られた。
- ・ 大量集積型おとり丸太では、同一箇所にて6年設置した試験地において、大量集積型丸太20m<sup>3</sup>で、カシナガの誘引数は、激害の設置当初は 15,000～30,000万頭/m<sup>3</sup>、枯死木が周囲からなくなった3年目で15千頭/m<sup>3</sup>、5年目には3千頭/m<sup>3</sup>に推移した。

【課題】

合成集合フェロモンによるナラ枯れ被害の軽減効果の有効性を確認できた。県内でもナラ枯れ被害は終息傾向にあるが、ナラ枯れ被害は再発することが確認されており、今後は、カシナガの個体数の動態に着目し、合成集合フェロモンによるナラ枯れ被害の再発防止効果の検証の必要性がある。

合成集合フェロモンを用いた大量捕殺手法

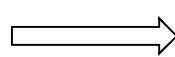
【おとり木トラップ】



事前に殺菌剤を樹幹に注入



- ①誘引剤として幹にエタノールを設置し、カイロモンを発生（木にドリルで穿孔）させる
- ②合成集合フェロモンを設置しカシノナガキクイムシを誘引
- ③カシノナガキクイムシの誘引状況確認のため粘着バンドを設置



被害地2箇所  
約1万頭/0.1haを誘殺

※伐採を前提とした林分では殺菌剤を注入しない、誘引伐採木も実施

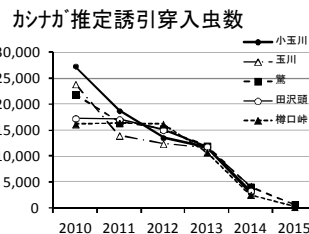
【おとり丸太トラップ】



丸太を20m<sup>3</sup>以上に大量集積



丸太に合成集合フェロモンを設置しカシノナガキクイムシを誘引



同じ箇所  
6年連続設置  
0にならない  
★ 設置4～5年  
で密度減少。0に  
するには7年か？

激害時から同一箇所にて大量集積型おとり丸太を6年設置  
4年目1万頭/m<sup>3</sup>、5年目3千頭/m<sup>3</sup>、6年目千頭/m<sup>3</sup>以下  
★ カシナガの密度を減らすには4～5年設置でいいが6年目で0にならない